



もがれた翼 Part 1 6 「あの橋をわたって」より

皆さんの方知ってもらってきた思いま
すといつ(らしい)解をされた) 意見や
「ぜひ、実現させるべきです」(応援します)
という激励のメッセージであふれていました。
打ち上げの懇話会の場所、「シエルター」設立
準備会を立ち上げよう! ということになり、
場所 資金 スタッフ集めが始まりました。
そして、なんと次の年の「もがれた翼の
上演のときは、間もなくシエルターが始動
します!」という運びになったのです。場所

資金 スタッフがそろったのです。控室に
いっ自に見る形で、「カリヨン子どもセンタ
」のイメーシを共有できたのが大きかった
と思います。
ひとりほ「おじやないよ
そのシエルターには、6年間で160名の
子どもたちがやってきました。
シエルターを運営する中で基本になったの
は「子どもの気持ちから出発しよう」というこ
と。話をよくきいて、簡単に解決できな
いけれど一縷に考えていこう「ひとりぼち
じやないよ」というメッセージを送っていま
す。シエルターで暮らしている子どもたちも
家に戻れる子は4分の1ほど。家に戻れない
子は、一人暮らしをするための資金を自支援
助ホームで自分の力で働きながら貯めてい
くことになりました。シエルターを築立つ子ども
たちを身送りながら、「シエルターと同じよう
に『ひとりぼちやないよ』というメッセ
ージを送れる自立援助ホームもつくりたい
な」という夢を、関係者のみんなが抱くよう
になり、「また、控室『もがれた翼』の舞台

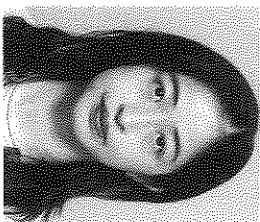
子どもたちに「パパ」をもらっ

そんなカリヨンに集った子どもたちが、ほつ
りどぶやく「おねえになりたい」という
ことは、彼らの過酷なこれまでの生き歴を考
えるとき、その背景に想像しきれない心の空
自があるのだろとも考えます。そして、家族
の再統合をはかるなかで、孤獨を強いる子育
てや、経済的にも精神的にも子どもとの時間
を奪う雇用環境の中で苦しむ父親・母親に対
峙します。子どもたちが、「カリヨンでシッ
ク」で元気に生きていく姿に「パパ」をもら
いながら、子どもがいきいきと生きられる社会
への還元もしていきたいなと思います。

(今回は長瀬麗理さんです)

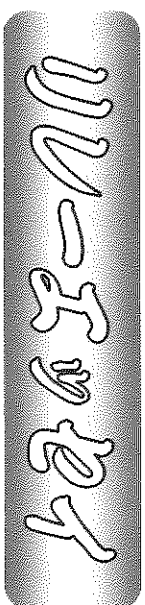
「おねえになりたい」子どもたちと貧困

弁護士 田部知江子



すおのに:」と横み重ねてきた苦しい思いを解
決する夢のシエルターとして設定したのです。
また弁護士にならたの私は、控室の練
習しながら「本当にシエルターをつつちや
いましょうよ!」と控室が誓言をしたので
すが、「場所がまず必要だし、運営の資金の目
処 スタッフとして関わってくれる方の確保
が必要。実現は10年後が目標」というのが
「だなぁ!」と納得したものでした。
ところが控室を上演した後のアンケート
をみてみると、控室のシエルターですと認
明していたにもかかわらず、「こんなシエルタ
」があるなんて知りませんでした! もつと

Message Message



VOICE VOICE